

1. 単元名 「お手紙」 アーノルド＝ローベル作、 みき たく やく

2. 目標

- 友達ががまくんに対して、いつも変わらず優しい言葉をかけたり行動したりするかえる君のすてきな人物像を読み味わうことができる。
- 物語を「かわいそう」「やさしいな」「よかった」という視点から丸ごと読みすることを通して、優しい心のすばらしさを感じることができる。
- 一人読みをしたことを基に、ハンドサインを使いながら仲間と一緒に読み考えることの楽しさを感じることができる。

3. 指導上の立場

○教材観

悲しんでいる友達を思いやり、相手を喜ばせるために努力する一生懸命さや、ほのぼのとした友情が描かれている作品である。

毎日顔を合わせる友達に対して、面と向かって直接手紙を渡すのではなくて郵便として配達するという点が特徴的である。それはとにかくお手紙を待っている友達の気持ちにあくまでこだわっているかえるくんの優しさであるが、2年生という発達段階の児童にとって「郵便配達されるお手紙」の大きな魅力は自然に共感できるものと思われる。

反面、スピード情報化時代の波に乗って大きくなっている児童にとってはこのゆったりとした流れの、ほのぼのとした雰囲気の話が異質な世界に感じてしまうかもしれないが友達の気持ちに寄りそう優しい心や、その心を感じ取れて幸せになれる素直な心を読み取ることによって、児童もまた、そんな友達関係にあこがれをもてるような作品であると思われる。

○児童の実態

削除しています。

○研究テーマとの関連

「心を開き、思いや考えを言葉で伝え合う子どもの育成」

①発問の研究

丸ごと読みの学習の仲間読みでは、児童が書き込んだことのみを発表してしまいがちになりやすい。発表の言いつばなしにならないように、児童が見つけたことを広げたり深めたりできるような発問を準備したい。

そのために、授業の中で瞬時に児童の発言に対応する発問ができるように、十分な教材研究や書き込みをしたワークシートの点検をしておきたい。また、主発問の他に、補助発問、揺さぶり発問などを準備しておきたい。

②学び合いの研究

まず、教材文を十分読み取るために、学習開始と共に家庭での音読練習をスタートする。普段は大段落に分けて表現読みを重点にした音読指導をしているが、丸ごと読みの学習に合わせ、毎日一気に全文をすらすら読める練習をさせたい。そうすることで、文章全体の内容をよくつかむことができるようになると考える。

物語の内容を理解しているということを土台に、丸ごと読みの学習の中で学び合いの姿を育てていきたい。2年生ではまず、ハンドサインを使って友達の考えと自分の考えを比べて聞いて意思表示をすること、そして少しずつ「付け足して」「似ていて」「反対で」という話形を使って自分の考えを語っていけるようにしたい。

また、それぞれの時間での自分の考えの変化や深まりについて2年生なりに書くことができるような工夫をしたワークシートを作りたい。

○指導法の工夫

①めあてをつかむ（初発の感想・課題づくり）

単元の導入時、物語を表情豊かに範読し、児童を物語の世界の中に引き込ませられるようにする。

初発の感想は、一つの短冊に一つの感想を書かせる。「○○は△△だなあ」「○○は△△かな」という表現にさせて、誰に対しての感想かを意識させたい。

挿し絵に対応させながら感想を発表させ、教師と一緒に種類を分類していき、丸ごと読みの課題『「かわいそう」「やさしいな」「よかった」というところを確かめよう』をつかませる。

②自分の読みを持つ（一人読み）

一人読みの活動の前に、範読を聞いたり、児童が音読をしたりという活動を入れ、課題に関係する部分を見つけやすくさせる。

全文ワークシートを与え、課題に関係する所にハートマークを付けさせたりサイドラインを引かせたりする。課題によって色を変え、心情をイメージさせやすくしたい。また、少しずつでも自分の解釈や気づきを書き込むことを指導し、自分の心の動きを言葉で表現できるようにさせる。

③読みを確かめる（仲間読み）

一人読みしたことを発表し合う。紹介しやすいように、まず3人グループで仲間読みをさせる。その後学級全体で仲間読みをさせる。

話し合いでは友達の発表をよく聞き、自分の読みとの違いを考えるよう指導する。ハンドサインで自分の立場を表現し、「〇〇さんに付け足して」「〇〇さんと違って」という話形を使って自分の考えを紹介できるようにさせる。

教師は児童の言葉を大切にしながら、ポイントを要約して板書の全文の中に位置付けしていく。つながり棒でつないで気持ちの変化や気持ちの根拠などを全文の中でとらえられる良さも伝えていきたい。

④生活読書につなげる

がまくん・かえるくんシリーズを紹介し、読書に親しませる。

4. 指導計画（全10時間）

	学 習 活 動	支 援 と 評 価
第1次 (3) 丸 ご と 読 み の 課 題 を つ か む	第1時 物語のあらすじをつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どんなお話か、読んでみよう。</p> </div> <p>○範読を聞き、その後で挿し絵を使って「誰がどうした」という話をさせていく中であらすじをつかむことができるようにさせる。</p> <p>○がまくんとかえるくんの会話文にしるしをつけさせ、どちらの言葉かはっきりととらえさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>挿し絵を基にあらすじを話すことができる。 (発言)</p> </div>
	第2時 物語のあらすじをつかみ感想をもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>心にのこったことをみじかい文で書こう。</p> </div> <p>○範読を聞き、初発の感想を短冊に書かせる。</p> <p>○「〇〇は△△だなあ」「〇〇は△△なのかな」という文型で1枚ずつ書かせる。</p> <p>○書きにくい児童には、個別に挿し絵について話をしながら心に浮かんできたことを語らせて文章化</p>

		<p>するように助言する。</p> <p>○短冊を書き上げたら、各自の挿し絵ワークシートに貼らせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>文型に合わせて、自分なりの感想を書くことができる。 (短冊の感想)</p> </div>
	<p>第3時 初発の感想を紹介し合い、丸ごと読みの課題をつかむ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>かんそうをしようかいし合おう。</p> </div> <p>○前時に書いた感想を紹介させる。</p> <p>○ハンドサインや話形に気をつけて、友達の感想につなげて言えるよう励ます。</p> <p>○感想が出終えた後で、自分の感想との類似点、相違点を確認させる。</p> <p>○感想全体を見渡させて「やさしい」「かわいそう」が多いことに気付かせ、課題づくりににつなげていく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>短冊に書いた感想を紹介する事ができる。 (発言)</p> </div>
<p>第2次 (4) 課題に即して物語を丸ごと読</p>	<p>第1時 「かわいそう」と思うところを一人読みする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「かわいそう」と思うところを考えよう。</p> </div> <p>○かわいそうという感情反応が起きやすいように範読する。がまくんの言動からかわいそうと感じたところで挙手させる。</p> <p>○冒頭の文を取り上げ、一人読みの学習方法を全員で確認させる。 (ハートマーク→サイドライン→理由の書き込み)</p> <p>○各自で一人読みをさせる。 見つけにくい児童には、挿し絵や部分的な文章に注目させて考えるよう個別に助言する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「かわいそう」な所を見つけ書き込むことができる。 (観察・ワークシート)</p> </div>

み す る	<p>第2時</p> <p>「かわいそう」と思うところを仲間読みする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「かわいそう」な所を話し合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○書き込みを元に発表できるようにする。 (グループ読み→全体読み) ○「かわいそう」には色々な見方があることを話し合いの中から気付くことができるようにする。 ○「がまくんかわいそうだったね」の手紙を書いてまとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「かわいそう」な所を理由をつけて発表できる。 (発言)</p> </div>
	<p>第3時</p> <p>「やさしいな」と思うところを一人読みする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「やさしいな」と思うところを考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○やさしいなという感情反応が起きやすいように範読する。かえるくんの言動から優しいなと感じた所で挙手させる。 ○各自で一人読みをさせる。 見つけにくい児童には、挿し絵や部分的な文章に注目させて考えるよう個別に助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「やさしいな」と思うところを見つけ書き込むことができる。(観察・ワークシート)</p> </div>
	<p>第4時</p> <p>「やさしいな」と思うところを仲間読みする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「やさしいな」と思うところを話し合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○書き込みを元に発表できるようにする。 (グループ読み→全体読み) ○かえるくんの行動を根拠に「やさしさ」を発表し合うことができるとよい。 ○途中、がまくんがいやな言い方をしたときにもかえるくんは変わらず優しくかったことを押さえる。 ○『かえるくんやさしいね』の手紙を書いてまとめる。

		<p>「やさしいな」と思うところを理由をつけて発表できる。 (発言)</p>
	<p>第5時 「よかった」と思うところを一人読みする。</p>	<p>「よかった」と思うところを考えよう。</p> <p>○全文を役割読みさせる。 ○がまくんとかえるくんの言動からよかったと思うところを見つけさせる。各自で一人読みをさせる。</p> <p>「よかった」と思うところを見つけ、書き込むことができる。 (観察・ワークシート)</p>
	<p>第6時 (本時) 「よかった」と思うところを仲間読みする。</p>	<p>「よかった」と思うところを話し合おう。</p> <p>○書き込みを元に発表できるようにする。 (グループ読み→全体読み)</p> <p>○「がまくん、かえるくんよかったね」の手紙を書いてまとめる。</p> <p>「よかった」と思うところを理由をつけて発表することができる。 (発言)</p>
<p>第3次 (1) 読書に親しむ</p>	<p>第1時 がまくん・かえるくんシリーズの本を読む。</p>	<p>がまくん・かえるくんシリーズの本を読もう。</p> <p>○一人に1冊はわたるように、図書館などから準備する。 ○夏休みの読書につながるように声かけをする。</p>

5. 本時案 (第2次 第6時)

目 標	「よかった」と思ったことを話し合うことを通して、友達との心の交流のすばらしさを読み味わうことができる。	
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
<p>1. 課題を確認する。</p> <p>2. 仲間読みをする。 ①グループで</p> <p>②学級で</p>	<div data-bbox="560 551 1118 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「よかった」と思うところについて話し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3人グループで前時に見つけた「よかった」と思うところを紹介し合わせる。 ・ グループ内で発表する事で、安心感や自信をもたせたい。 ・ 友達の考えに賛同したら、自分のワークシートに書き込み、考えを広げさせる。 ・ 「よかった」と思ったところを発表させる。 	
主発問	<p>「よかった」と思った所はどこですか？ どうしてよかったと思ったかわけも発表しましょう。</p>	
<p style="text-align: center;">予想される発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どうしたんだい、きみかなしそうだね。 → がまくんに色々聞いてあげてよかった。 ○ 二人ともかなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしていました。 → 側に一緒にいてあげてよかった。 ○ 大いそぎで家へかえりました。等々 → 早く手紙を書いてあげてよかった。 ○ 「おねがいで、・・・入れてきてくれないかい。」 → ちょうどかたつむりくんがいてよかった。 ○ 「まかせてくれよ。」「すぐやるぜ。」 → かたつむりくんが引き受けてくれてよかった。 ○ 「きみおきてさ、まってみたらいいとおもうな。」等々 → 色々言っただまくんをはげましていてよかった。 ○ 『しんあいなるがまがえるくん。・・・きみのしんゆうかえる』 → がまくんが喜ぶような手紙でよかった。 ○ 「ああ、」「とてもいい手紙だ」 → がまくんが喜んでよかった。 		
		<p>【発言】 C 評価児童 への手だて</p>

<p>○二人ともしあわせな気持ちでそこにすわっていました。 →前は悲しい気持ちだったのに、幸せな気持ちになれてよかった。</p> <p>○四日たってかたつむりくんががまくんの家につきました。そしてかえるくんからの手紙をがまくんにわたしました。 →かたつむりくんが時間がかかってもちゃんと届けてくれてよかった</p> <p>○手紙をもらってがまくんはとてもよろこびました。 →がまくんが初めて手紙をもらえてよろこんでよかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期段階で指名する。 ・ グループ読みや前時のワークシートの評価で自信を持たせる。 ・ 友達の意見をしっかり聞き、ハンドサインで意思表示させる。付け足して言えている児童を賞揚し、学び合いの励みとさせる。 ・ 児童の発言を黒板の全文シートにラインや言葉、つながり棒などで位置づけていく。 ・ 一通り出たところで、二人はよい友達だということを話し合わせる。 	
<p>補助発問</p>	<p>二人はよい友達ですか？ どうしてそう思いましたか？</p>	
<p>3. まとめをする。</p> <p>4. 次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ かえるくんの行動だけに集中しないように、悩みや不満を言えるがまくんとかえるくんの関係にも気付かせたい。 ・ 『がまくん、かえるくんよかったね』という題でがまくんへ手紙を書くことによって、友達と心がつながっているすばらしさを味わえるようにさせたい。 ・ 感想（手紙）を紹介させたり、書き加えたりさせる。 ・ がまくん・かえるくんシリーズの本を読むことを伝える。 	<p>【手紙】 C 評価児童への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がまくんとかえるくんかどちらに手紙を書くか決めさせ、板書から手紙の内容を探せるように助言する。

6. 本時の評価

- A・・・がまくんとかえるくんの心のつながりに気がつき、発表したり、手紙に書いたりすることができる。
- B・・・「よかった」と思うところを、理由をつけて発表することができる。
- C・・・「よかった」と思うところを、発表することができない。